

文化財保存新潟県協議会・第13回大会**新潟の文化財の保存と活用を考える**

今年度の文化財保存新潟県協議会総・大会を以下のように開催いたします。

総会は文化財保存新潟県協議会会員（新潟県内在住の文化財保存全国協議会会員）が年に一度集まり、本会のこれまでの活動を振り返り、今後の指針を協議する重要な会です。また、大会は広く市民に参加を呼びかけ、遺跡と歴史と一緒に学ぼうという機会です。

旧中郷村籠峰遺跡で研究者・市民による新潟県初の保存運動が巻き起こったのが1984（昭和59）年。そして、その後増え続けた県内の文化財保存全国協議会（文全協）の会員によって本会が結成されたのが1996（平成8）年。以来、私たちは多くの遺跡の保存運動に取り組み、市民のための文化財の保存と活用の必要性を訴えてきました。折しも、この夏、新潟市では「新潟市文化財センター（まいぶんポート）」がオープン、新潟市歴史博物館では「発掘された日本列島2011 重要な遺跡・遺物の最新発掘速報展」を開催。この二つを記念したシンポジウム「遺跡からさぐる新潟の原点」（8月21日 新潟市民プラザ）には熱気あふれる多くの市民がつどいました。来年は、いよいよ国史跡・古津八幡山遺跡（新潟市秋葉区）の史跡整備が完成する予定です。県内各地でも保存された多くの遺跡の活用、新たな見学施設の開設が相次いでいます。そこで、文新協では今こそ新潟の遺跡の保存と活用の現状を見直したいと考えました。文新協がほこる遺跡のスペシャリストが新潟の遺跡の今を語ります。

なお、大会終了後は懇親会を開催いたします。お気軽にご参加下さい。大会・懇親会への参加は、会員に限りません。歴史や遺跡に興味をお持ちの方々のご参加をお待ちしています。

と き：2011年11月23日（水・祝）

ところ：新潟市歴史博物館（みなとぴあ）・2階セミナー室

（新潟市中央区柳島町2-10 TEL：025-225-6111）

日 程：総 会 12：30～13：00

大 会 13：00 一般受付開始

13：30開会～16：30（終了予定）

講演「にいがたの遺跡公園を歩く～文化財の活用例に学ぶ～」

小林 隆幸 さん（新潟市歴史博物館学芸員）

報告「文化財に学ぶ市民の運動」

川上真紀子 さん（本会運営委員）

「史跡古津八幡山遺跡の今～最近の調査から～」

甘粕 健 さん（本会会長）

懇親会 17：00～（会場は当日ご案内します。会費4000円程度。）

※資料代500円をいただきます。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」の魅力語る！



最前線で調査にあられる
宇佐美さんのホットなお話

去る2010年11月21日（日）、文新協第12回大会「よみがえる中近世佐渡金銀山と鉱山町～世界遺産にむけての考古学的調査から～」が開かれました。会場のみなとびあセミナー室は久しぶりの講演会とあって熱心な参加者が集まりました。開会のあいさつで甘粕健会長は、佐渡金銀山の近年の調査研究によって世界遺産登録の条件が揃いつつあることを強調。文新協としても佐渡金銀山の世界遺産に向けて努力しようと呼びかけました。

さて、講演は、佐渡市世界遺産推進課の宇佐美亮さんの「中近世の佐渡金銀山－近年の考古学的調査から－」で始まりしました。宇佐美さんは最近の調査成果から、西三川砂金山から始まる中近世の佐渡島全体の鉱山の具体像に迫りました。佐渡では、西三川のあと、鶴子銀山、新穂銀山の開発が先行しました。

その後、相川の金銀山の開発が本格化し、上相川に鉱山町が形成されていきます。石切場の調査や奉行所の調査を含めた、全体像がよく分かるお話でした。

続いて橋本博文副会長が「佐渡の魅力と世界遺産登録への課題」と題して世界遺産登録に必要な点をいくつか指摘しました。特に佐渡鉱山の価値を考えるにあたって、西洋技術として取り入れられたアルキメデスポンプに注目。西洋技術が近世日本で普及し発展していた点に、今までの閉鎖的な日本のイメージとは異なる面を明らかにしました。同時に多くの鉱山絵巻物が外国で発見されており、佐渡鉱山が高い技術を持つことを証明するとともに、外国も佐渡鉱山に関心を持っていたことが明らかにされました。

今回の大会は、文新協がはじめて本格的に佐渡鉱山の世界遺産登録を前面に出した取り組みとなりました。橋本報告の最後にある「世界遺産登録が最終ゴールではなく、その過程を大切にし、その後を見据えた地道な活動を継続することが望まれている。」の一文は文新協全体にとっても忘れてはならないこととなりました。

なお、大会に先立ち行われた総会では、「2009年度活動報告」「2010年度事業計画」などの議事をご承認いただきました。ここにご報告させていただきます。（川上真紀子）

----- 【参加者の感想】 -----

昨今、世界遺産ブームの様子の中で、佐渡金銀山遺跡が暫定登録されました事を知り、金銀山遺跡だけでなく佐渡に残された古代からの伝承文化の大切さを改めて知りましし、普及の大切さも知りました。佐渡には一度しか行ったことはありませんが、とても素敵な所だった印象があります。佐渡の鉱山の歴史について、またその価値や特性について知ることができ、また佐渡を訪れる時は、以前よりも充実して、鉱山をみることができそうです。佐渡の他の文化や歴史についても知ってみたいと思いました。素敵な機会を頂き、ありがとうございました。

直接現地調査に関わっておられる方より、詳しく最近の情報が聴けてよかった。

今まで知らなかった佐渡の人々の活動にふれて、佐渡への親しみが増大した。世界遺産に登録される条

件、世界遺産の内容を知りたいと思います。

佐渡の金銀山は、私ども素人は道遊の割戸が象徴的に知らされている。鉱山はそれだけでなく、島内には、それ以外にも鉱山遺跡があるという。何よりも、地元からの盛り上がり的大事ではないか。鉱山技術と鉱山が盛んなころに流行ったものと思われる伝統芸能も伝えることも大事。

鶴子銀山の存在についてほとんど知識がなかったが、今回の講演で良く理解出来た。石材の石切場についての話が興味深かった。どこから採掘したのか疑問に思っていた。

宇佐美さんの講演の、最後のまとめの体系図がわかりやすかつ

た。近世、特に17世紀前半の佐渡を、私自身が理解するための良い機会だった。橋本さんの報告にあったアルキメデス・スクリュー・ポンプの話が興味深かった。技術の広がり、伝承、当時の交流（地域間の？）について考えさせられる。

考古学的調査からの解説は、文新協ならではの説明は、画像と併せ、たいへん貴重な講演でした。登録への課題、石見との差別化…いろいろな材料はあるとしても、なかなかむずかしいものと知らされました。



アルキメデスポンプを写真で紹介

弥生・古墳講座「飯綱山古墳群と越後の中期古墳」開催！

飯綱山古墳群の調査成果から中期古墳にせまる!!

昨年12月19日（日）、みなとびあを会場に第11回目の学習会となる「弥生・古墳講座」を開催しました。講師は当会副会長の橋本博文新潟大学教授です。演題にある飯綱山古墳群は南魚沼市（旧六日町）に所在し、古墳時代中期に位置づけられる5世紀代の群集墳です。なかでも主墳となる径約36mの円墳・10号墳は、土地所有者の若井親子によって明治期に発掘されています。この古墳からは、鉄刀・鉄鉾・鉄鏃・短甲などの武器や武具、馬鐸・三環鈴・轡・鏡板などの馬具、そして多数の銅鏡などが出土しています。講師ご自身も1995年から2003年にかけて当古墳群を調査し、県内初となる壺形埴輪や当古墳群では学術調査初の鏡の出土などに立ち会われてきました。

講演では、まず、明治期に遡るこれまでの飯綱山古墳群の研究史を振り返り、ご自身の調査を踏まえたこれまでの研究成果を総括する報告がありました。そして、テーマにある越後の中期古墳として、飯綱山古墳群のほか同じ南魚沼の蟻子山古墳群や頸城の黒田古墳群・観音平古墳群・天神堂古墳群の報告がありました。いずれも初期群集墳に位置づけられるものです。その中でも古墳の規模や出土品等の比較から、飯綱山古墳群の優劣さが浮き彫りにされました。

では、なぜ南魚沼に多数の群集墳を造営する集団があったのか。残念ながら時間切れでまとめの話を伺うことはできませんでした。しかし、配付資料から、上毛野の勢力に対してヤマト政権が牽制するためとの興味深い見方が示されていました。飯綱山10号墳の被葬者は、副葬品などから軍事集団の長と考えられてきました。日本海側から関東に続く南魚沼の軍事集団を頼みに、ヤマト政権は上毛野の背後にくさびを打ったのです。

今回の学習会には約50名が参加しました。2時間半の持ち時間では語りつくせない充実した内容でした。越後の古墳は今回の中期の話題から次の後期へどのように展開していくのか。参加者の多くが期待を高めたことでしょう。 (小林隆幸)

----- **【参加者の感想】** -----

飯綱山の総まとめ的なお話をお聞きできて、とてもよかったです。「まとめ」の部分も、また改めてゆっくりお聞きしたいです。

いつもながら橋本先生のお話は中身が濃く、又資料も多く、楽しい一時でした。

盛りだくさんのお話で、どれだけ記憶に残せるか、どれをしっかりと覚えておこうかと、自分で後でゆっくり考えなくては、と思うほどです。終わるまであまり他のことを考えないようにします。1カ所の古墳をじっくりお話しして下さり、大変よかったです。

古墳のことはほとんど分からないのですが、大変興味深く拝聴させて頂きました。詳しい方々が多そうで少し場違いな気も致しますが、古代の高い技術の品々が現在見られるなど面白いです。先生のお話は、初めてでもわかりやすく良かったです。

文化財保存新潟県協議会主催 秋の見学会のお知らせ

発掘作業や史跡整備がすすむ北陸の遺跡の数々

「越中・加賀の遺跡最新情報!!

～弥生墳墓・古墳・城跡を訪ねる～」のご案内

日 時：2011年 11月26日(土)・27日(日) 1泊2日

見学地(予定)：富山県富山市郷土博物館、富山城、富山市婦中埋蔵文化財収蔵庫(史跡王塚千坊山遺跡群遺物)・史跡王塚千坊山遺跡群(富崎墳墓群・王塚古墳など)、石川県能美市立歴史民俗資料館・能美古墳群(和田山・末寺山・秋常山)、石川県金沢市金沢城跡など

※詳細は別紙チラシをご覧ください。

編集後記

1年ぶりの会報をお届けします。今回は昨年秋の総・大会と弥生・古墳講座の様をお伝えしました。11月には第13回総・大会、秋の遺跡見学会を開催します。詳細は、同封のチラシをご覧ください。皆さん、ふるってご参加下さい。

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には、可能な限りお送りいたします(ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります)。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は、事務局までご一報下さい。

文化財保存新潟県協議会事務局 (入会についてのお問い合わせも)

ホームページ：<http://www10.ocn.ne.jp/~bunsin-k/>

E-mail：bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp